

第 23 回高知市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和 7 年 8 月 4 日 (月)
開会：午後 3 時 30 分 閉会：午後 5 時
- 2 開催場所 高知市青年センター アスパルこうち 4 階ホール
- 3 出席者
- (構成員)
- | | |
|--------------|--------|
| 高知市長 | 桑名 龍吾 |
| 高知市教育委員会 教育長 | 永野 隆史 |
| 委 員 | 谷 智子 |
| 委 員 | 西森 やよい |
| 委 員 | 野並 誠二 |
| 委 員 | 森田 美佐 |
- (市長事務部局)
- | | |
|-----------|--------|
| 副市長 | 神谷 美来 |
| 副市長 | 弘瀬 優 |
| 政策企画部長 | 林 充 |
| 政策企画部副部長 | 甫喜本 博貴 |
| 政策企画課課長補佐 | 平峯 真理 |
| 政策企画課係長 | 清遠 佳澄 |
| 政策企画課主査補 | 谷村 将生 |
- (教育委員会事務局)
- | | |
|--------------|--------|
| 教育次長 | 竹内 清貴 |
| 教育次長 | 植田 浩二 |
| 教育政策課長 | 岸田 正法 |
| 教育政策課課長補佐 | 田中 茂夫 |
| 教育政策課総務担当係長 | 西野 友庸 |
| 教育政策課主査 | 四國 真衣 |
| 学校教育課長 | 田邊 裕貴 |
| 学校教育課副参事 | 入江 洋 |
| 学校教育課学力向上指導監 | 森田 やよい |
| 学校教育課指導主事 | 久保 智司 |
| 高知商業高等学校長 | 成瀬 孝治 |
| 高知商業高等学校事務長 | 成岡 真 |

4 議 題 高知商業高等学校の今後の在り方について

【報告事項】

- ①令和7年度全国学力・学習状況調査 結果概要と今後の取組について
- ②令和7年度 高知市立学校における水泳実技授業について

5 議事の経過

● 高知商業高等学校の今後の在り方について資料に沿って説明

● 議論

（森田委員）

国公立大学では一般選抜や総合選抜、学校推薦型選抜など多様な入試方式があると思うが、どのような入試方式において合格率が高いのか、何か特徴があれば教えていただきたい。

また、生徒たちが「本物」に触れる経験が非常に重要だと思う。修学旅行や専門職大学の訪問、実際に現場で活動している大人や大学生との交流を通じて、教科書やインターネットの知識だけでは得られないリアルな体験をすることで、生徒の意識や視野が大きく広がっており、そういったところが合格率の上昇につながっていると思われるが、先生はどうお考えか。

（高知商業高等学校 成瀬校長）

国公立大学の進学については、これまでは総合選抜や学校推薦型が中心だった。しかし令和7年度の入試からは、共通テストに挑戦する生徒が100名を超え、一般の生徒も積極的に学力向上に取り組んでいる。これは大きな変化であり、学力試験で合格する生徒も出てきている。生徒たちが本物に触れることは重要で、私自身も地域のリアルな体験プログラムや商店街イベントに長年参加し、生徒の意識や視野が広がる様子を実感している。現在は体験学習や地域の大学生との交流も行い、生徒の未来像を描く助けとなっている。県外からの受験者はまだ多くないが、問い合わせも増えており、今後の入試制度の変化にも対応しながら広報を強化し、県内外問わず志望者を増やしていきたいと考えている。生徒自身も学校を楽しんでいると感じており、体験入学などで中学生にその魅力を伝えている。

（野並委員）

全国的に医師会系の看護学校が経営難で閉鎖が相次いでいるが、高知県でも医師会系看護学校が閉鎖された。看護師志願者の減少は全国的な傾向であり、その中で高知商業高校の充足率の高さを維持していることは非常に注目に値する。特に人口減少の中で、専門性に特化した教育がカギになると思う。そこで質問だが、県外からの受験者は近年どのように推移しており、今後県外からの応募が増える見込みはあるのか。

（高知商業高等学校 成瀬校長）

県外からの受験希望者は今のところ多くはない。ただ、ここ数年県外からの問い合わせが増えてきていると感じている。入試制度も今後変わっていく可能性があるため、広い視野でアンテナを張り、県内中学生に加えて県外からも志望される学校でありたいと考えている。

（西森委員）

説明を受けて、充実した3年間をおくることができる学校だと改めて感じた。

その中で、本校が高知市に所在することの意義について考える。歴史的に高知は自由民権運動の発祥地であり、坂本龍馬のような歴史的人物が輩出されている。また、近年は多方面で輝かしい人材も生まれている。そうした何か新しいことを生み出していく風土が高知にはあると思うので、高知の誇りや文化的背景を学校教育に活かしていくことで、卒業後、県外へ出て高知に戻ってきて活躍する人や、活躍した人を見て、県外の方が高知に来てくれることがあるのではないかなと思う。高知としての特色を打ち出していければ良いかなと考える。

（高知商業高等学校 成瀬校長）

高知市立の学校として127年の歴史があり、それに誇りを持っている。生徒や教職員が地域とのつながりを大切にし、地域の行事などに積極的に参加しているものの、その取組を体系化できていない面があるので、今後はいただいた御意見を踏まえ、体系化に向けて取り組んでいきたいと考えている。

（谷委員）

先日、県外の大学の先生が本校を訪問し、生徒たちの爽やかな挨拶や活発な授業への参加を高く評価されていた。学力実績だけでなく、生徒が主体的に学び、人格形成にも力を入れていることが評価の理由だと思う。それには、実際に社会に触れた学びや大学の先生に話を聞くなどのリアルな学びを得る環境を整えていることが起因していると思う。今後は、地域や保護者、企業のニーズを的確に把握し、それを踏まえた分かりやすい学校の強みの発信がより重要と思うので、そういったことも含めて学校の魅力を発信していただきたい。

（高知商業高等学校 成瀬校長）

外部からの高い評価は教職員にとって大きな励みであるので、本日いただいた言葉を先生方に伝えたいと思う。体験入学では高校生が主体となって中学生に説明し、一緒に授業を受ける形をとっている。こうした形で高校の魅力を中学生に直接伝えられていることも強みと考え、今後も地域や中学校との連携を深め、学校の良さを伝えていく。

(桑名市長)

高知商業高校の歴史と横のつながりの強さを非常に実感している。これまでは商業高校といえ、商売人の子が学んで家業を継ぐというイメージがあったが、現代では、大学に進学し会社に就職するということも増えてきている。もちろん、進学や就職も重要だが、商業高校のOB・OGからは実業高校としての存在感も出していただきたいという声をいただいた。商業高校としての存在感について校長先生に伺いたい。

(高知商業高等学校 成瀬校長)

商業高校としての最大の強みは、実際の社会とつながる体験型の学びができることである。教員もその強みを体感して取り組んでおり、それにより授業内容も常に進化している。今後必要なことは、この特色をさらに広く分かりやすく発信し、高知商業高校としての存在感を高めていくことだと考えている。

(永野教育長)

高知市の子供たちの学力調査の結果は厳しいものであり、高知商業高校の生徒の学力を伸ばしていく上で、高知市全体の子供たちの学力との乖離が懸念されるが、どのように考えているか。

高知商業に入学してくる子供たちへ学力だけではなく、心情面や資質・能力の育成も重要なので、そういった観点も踏まえたフィードバックを求める。

また、市内外からの入学者の比率についても教えていただきたい。

21世紀型の教育課程を先取りしているのは大きな強みであり、これをさらに発展させつつ、少子化など地域の課題を学校教育に取り入れ、高校生自身が議論し提案できる学びの場となることを期待している。

(高知商業高等学校 成瀬校長)

課題として認識しているのは、基礎学力のインプットが弱い傾向があり、アウトプットの体験学習と合わせて基礎力強化も重要な課題と捉えている。質問に対して正確には答えられないが、商業高校としては学力向上には基礎を学び、それを応用する場面を学校として設定すべきだと考えている。

入学者の市内外割合については、ほぼ半々で、市内生がやや多い。

高知市あつての高知商業学校として、生徒が高知に貢献できるような教育を目指しているので、実現ができるよう取り組んでいきたいと考えている。

(桑名市長)

学校と教職員が一丸となって、生徒の未来を見据えていることがよく伝わった。少子化の厳しい時代であっても「選ばれる学校」「持続可能な高知商業」を築くために努力を続けてほしいと思っている。今後も適正規模や学校の在り方について継続して議論していく考え

なので、よろしくお願いします。

●報告事項1 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果概要と今後の取組について説明

(西森委員)

2点ほど伺いたい。

まず、全国学力・学習状況調査はかなり長く続いていると思うが、開始当初に比べて位置付けや評価の観点で変化があったのかどうかをお聞きしたい。例えば、当初はA B C Dの4段階のうちDだった学校や県が、努力の結果Cに上がるといった動きはあるのか。そういった取組や参考になる事例が把握されているなら伺いたい。

次に、理科のC B T（コンピュータベーステスト）導入について、文科省は準備や混乱防止に相当努力されたと思うが、高知市での試験中の混乱や変化、特に留意して取り組まれた点などはあったのか。

司法試験も来年からC B T化するため、その動きに関心がある。全国一律の話になると思うが、C B T導入に当たって起きた変化や対策について伺いたい。

(学校教育課 森田学力向上指導監)

まず、学力調査について、子供の学力定着状況を把握することが目的であり、高知県・高知市としては、特にA B C Dのうち下位層の子供たちをどう支援し、力をつけていくかを重点に置いている。

今年度は詳細について、これから詰めていく段階である。小学校ではB層が少なく、A層が多い。中学校ではB層の割合が多く、学力向上には厳しい状況である。個々の子供に対応した支援を通して力を伸ばしていきたいと考えている。

次に、C B Tの実施について、国から前年度に学校へ周知があり、児童生徒に方法や内容について説明をしている。学校もタイピング練習やタブレットを使った情報読解の取組を進めている。今回の調査では、問題として出される情報量や図表が多く、子供たちの中に、少し難しさを感じた子供もいた。高知市としては、C B Tに対応するための練習の必要性を感じており、今後の情報処理の在り方について注視しながら、学校と協力して取り組んでいく。

●報告事項2 令和7年度 高知市立学校における水泳実技授業について説明

(谷委員)

子供たちの命を守るために大事なものは、水泳の授業だけでなく、全ての危機対応が重要だと思う。その点で教育委員会としてもいろいろ対応していると思うが、今回、水泳授業の未実施の中学校が1校あるとのことだった。この学校は水泳授業を行わなかったということか。

また、ほかの施設で実施するといった対応はなかったのか。今後、このような不具合で水泳の実技授業ができなかった事態を防ぐために、事前準備や対応をしっかり進めていただきたいと思う。

（学校教育課 入江副参事）

該当の中学校については、今年度は水泳の実技授業を実施していないが、座学の授業は行っている。

ほかの施設での実施について、教育委員会としても提案はしたが、施設の不具合や水質の問題で、安全管理上、非常に厳しい状況であることが分かった。校長からの意向もあり、保護者への説明や教育課程上の事情も踏まえて、今年度の実施は見送ることとなり、教育委員会もそれを了承した。

（永野教育長）

『【根本理念】子供の命を守り抜く』ために全ての職員が徹底すべき6箇条に関しては、多くの方々の参加と議論のもとで決められたものであり、協力に感謝する。これに基づき、各学校に対して支援を行い、一定の成果があったと考えている。

しかし課題も出ているため、それらを一つずつ丁寧に改善していく準備を進めている。今回の水泳事業に関しては、不安の中での実施だったが、全職員が一丸となって取り組めたと思っている。今後も丁寧に進めていく。

（森田委員）

先程の学力向上・状況調査について、小学校低学年の子供たちについて懸念があり、基礎的なことが難しい子供が取り残されていないか心配である。宿題の取組方も含めて、低学年の段階から学びが楽しいと感じられるように、みんなで見守り支援していくことが重要だと考える。

また、「自ら学びを進める力」を育てるには、先生方のサポートが欠かせないと思う。子供たちが自分を「できる」と感じ、自分で自己チェックしながら成長している実感を持てるような環境づくりが必要である。こうした内発的な学びの軸をしっかり支えていくことが大切だと思う。

（学校教育課 森田学力向上指導監）

森田委員の御意見は非常に重要であると感じている。小学校1年生から中学3年生まで、一時間一時間の授業を大切にし、理解できる内容を徹底していきたいと思う。

また、子供たちが「まだ成長途中であり、できないわけではない」という自己肯定感を持つことが大切だと思い、自己肯定感を高め、学びの成果を授業の中で引き出せるような取組をさらに考えて実施していきたいと考えている。

(野並委員)

先日、学校訪問で授業参観をし、タブレットを使った授業を拝見した。生徒たちが非常に積極的に取り組んでいる姿を目にし、大変感心した。このような取組が今後の学力向上にどのように活かされていくのか、大いに期待している。

(永野教育長)

I C T教育について、単なる操作技能にとどまるものにしてはならないと考えている。個別最適化や協働的な学びという目標に向けて、授業研究や指導に力を入れているところである。

ただし、実態としてはまだ課題が多く、予算面の制約もある。教育行政としては、子供たちがしっかりと身に付く指導やI C T活用を今後も改善していきたいと思っている。